

## 一般講演抄録

## 1 療養型病棟における口腔ケアの実態と医科歯科連携事業への取り組みについて

木暮ミカ, 小林香葉子<sup>2</sup>, 小林 梢<sup>2</sup>, 江川広子<sup>1</sup>, 金子 潤<sup>1,2</sup>明倫短期大学 歯科技工士学科, <sup>1</sup>歯科衛生士学科, <sup>2</sup>附属歯科診療所

keywords : 口腔ケア, 医科歯科連携, 療養型病棟, 口腔機能維持管理加算

## はじめに

M病院は1994年に療養型病棟(152床)を開設し, 当診療所は開設当初より歯科治療および口腔ケアを行っており, 2007年には介助職員を対象とした口腔ケアについての講習会を行っている。

今回, 2009年4月の介護保険改定により口腔機能維持管理加算(30単位/月)が新設されたことを受け, 算定要件である「口腔ケア・マネジメントに係る計画」の作成および歯科医師による「口腔ケアに係る技術的指導及び助言」についての協力を依頼されたため, 入院患者の口腔環境を把握する目的で, 各患者の口腔内調査と病棟介助職員による口腔ケアの内容について実態調査をした。

## 対象および方法

対象 : M病院療養型病棟入院患者101名

実施期間 : 2009年7月7日~2010年8月9日

方法 :

【口腔内調査項目】現在歯数, 齲歯数, 処置歯数, 健全歯数, 喪失歯数, DMF値, CPITN, 清掃状況, 口腔乾燥症の有無, 義歯の使用状況, 摂食状況, 感染症の有無, 含嗽の可否

【口腔ケア内容調査項目】頻度, 時間, 使用器具

【統計的検討項目】現在歯数と口腔清掃状況, 現在歯数と要治療度, 口腔清掃状況とCPITN値

## 結果および考察

1. 対象者101名の平均年齢は87歳(±23)で, うち要介護度「4」は14名, 「5」は87名であった。また, 摂食状況は経口摂取が47名(義歯使用者4名), 経管栄養が54名であった。
2. DMFT指数は全国歯科疾患実態調査の数値(70歳以上で26.7)<sup>1)</sup>に近似であった。CPITN平均

値はコード3であり, 計測可能な受診者全員が歯周病に罹患していた。

3. 歯の有無と口腔内の清掃状況や要治療度には相関があることが示唆された。
4. 口腔清掃方法についての講習会を実施したにもかかわらず, 歯ブラシを使用している50人のうち38人が清掃不良という結果より, 手用歯ブラシでは適切なケアが難しいと思われる。
5. 口腔乾燥については, 経口摂取していない者で重度口腔乾燥割合が高く, 経口摂取しないことによる舌運動機能低下および舌の腫脹, 痂皮形成がみられた(図1)。

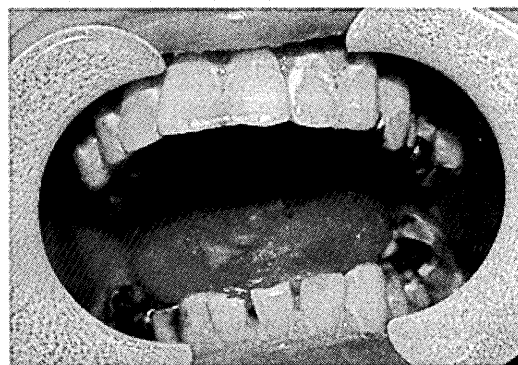


図1. 痂皮の付着した口腔内

## まとめ

療養型病棟入院患者の口腔状況の把握と今後の課題について検討を行った。対象者は要介護度4~5であり, ADLの改善や多様な障害に対する対応を主眼とした歯科診療, 口腔ケアは必須であると考え, 今後は医科歯科連携事業として, 介助職員とともに個々の患者の状況に合わせた口腔ケアの内容を検討する必要がある。

## 参考文献

- 1) 平成17年歯科疾患実態調査結果, 厚生労働省, 2005